

# 工大 広報

Tohoku Institute of Technology Magazine

No. **321**  
2026.4 SPRING

東北工大の「いま」と「ミライ」が分かるマガジン

未来の  
エスキースを  
描く。



## 特集

### LABORATORY REPORT 研究室通信

地域の暮らしや生業を見つめ  
未来に継ぐべき住空間をデザイン

ライフデザイン学部 生活デザイン学科  
大沼 正寛 教授

地域課題に取り組みながら  
最善の防災まちづくりを

建築学部 建築学科  
鍵屋 浩司 教授

## CONTENTS

- P02 新学長からのメッセージ    P10 【TOPICS】 地域連携センター  
P04 LABORATORY REPORT    P11 【TOPICS】 研究支援センター  
P08 Lab Talk!    P12 【TOPICS】 キャンパス通信

# MESSAGE

新学長からのメッセージ

学生たちの期待と

学びへの意欲に

応えられる

教育体制の向上へ。

東北工業大学

こばやし まさ き

小林 正樹学長

## PROFILE

長野県諏訪市出身。平成5年に東北大学で博士(工学)を取得。東北工業大学には、平成12年に工学部電子工学科(現:電気電子工学課程)の助教授として就任。平成18年に教授となり、教務部長、工学部長を歴任。令和3年から理事、副学長に就任。今年度から学長として新たなスタートを切る。専門分野は電子工学、生体医用光学。

## 学生たちが自由闊達に学べる良環境で

## 多彩な専門分野で指導に当たる教員陣。

学生たちがのびのびと勉学に励むことができる良好な環境が培われていることが、本学ならではの魅力です。教員も学生と同じ目線に立って指導に取り組んでおり、相互の距離の身近さゆえに、学生たちの長所を見出し、能力を引き出す機会を多く生み出していると感じています。また、それぞれの専門分野に秀でた教員が揃っており、世の中の変革をもたらすような最先端の技術に挑む先生から、地域社会へ貢献する活動でアクションを起こしながら独自の研究に邁進している先生まで、学部／課程・学科の域にとどまらない厚みのある研究者が集まり、それが本学の教育のベースとなって学生にフィードバックできていると思っています。私自身も、明るく楽しいキャンパスの雰囲気の中で、学生たちと親密な関係を結びながら学びを高め合える毎日に、喜びとやりがいを感じています。

## スペシャリストとして活躍できる

## 豊かな才能を備えた社会人の輩出を。

工学部は、昨年度4月に改組を行い、従来の「学科制」から「課程制」へ移行を果たしました。これは、専門分野間における横断的な学びを促進する体制を整えることが目的です。そのガイダンスを在校生向けに実施したのですが、出席した学生がみな興味を持って耳を傾けている姿が印象的でした。自ら選択し学んでいる専門分野を深めつつも、さらにそこへプラスアルファの知識や技術を身につけられることは、学生たちにとって大きなメリットになると、大いに期待感を持ってきているようです。

学びの幅を広げると同時に、教育の質を担保する取り組みにも力を入れます。各教育課程のカリキュラムに設定されている個々の授業では、その単位を取得した後もその分野の専門家として確実に身につけているべき最低限の項目を定めています。とくに土台となる1・2年次の基礎科目が重要ですが、上位学年になってその定着が十分でない場合は、教員たちが継続的にフォローをしていく体制が必要だと考えています。卒業後、専門家として実社会で認めってもらうために必要な能力を、大学での学びの集大成としての卒業研修に入る前にしっかりとチェックし、十分でない学生に対しては再度学修する機会を与えるといった体制を整えたいと思っています。これは、文部科学省が打ち出している「教育の質保証」に則っており、本学が産業界や地域社会から今後も高い信頼を得ていくために示すべき姿勢や努力であり、重要な責務だと考えています。

さらに、AIの急速な進歩が著しい近年において、社会人として活躍するために必要な、AIでは決して代替することのできない力を実力として身につけてもらうことも目指しています。それこそが、本学が特徴とする、明るく楽しく、のびのびとした勉学や課外活動によって育まれるものでもあり、また工学部改組による「課程制」やライフデザイン学部の「副専攻制」は、そのような学びを促進する効果も狙っています。



## 大学における教育の質を高めるために

## 学生も参画する評価体制を構想中。

これからさらに注力していきたいと考えているのは、FD (Faculty Development) 活動です。大学の教員が授業内容や方法を改善・向上させるための組織的な取り組みであり、これまでも実践してきましたが、学生が受け身の旧来型の授業から、学生が主体的に参画する授業への本格的転換が、今まさに本学に求められていると感じています。そのためにも、学生たちにも授業の方法や内容について共に考える場に参画してもらおうようなしくみができたらいいと考えています。これまでも授業に対する評価をアンケートで求めたり、一部の学生を集めて学生目線での意見を募ったりする機会を設け、満足度を測るとともに、授業改善に役立ててきましたが、さらに踏み込んで大学教育に関わるサークル活動のような形で、学生たちとともに教育の方法の見直しや、さらにカリキュラムの改善へ向かうような、そんな構想を抱いているところです。

今後、少子化が進み、宮城県においても大学進学者が10年後に15%減少することが見込まれています。その上で、本学が現在推し進めている教育の質をしっかりと保証する取り組みをより前進させ、広くアピールしていきたいと思っています。

### COLUMN

#### 学長の 「週末のいき抜き」

その一つはそば打ちです。そば粉には、山形県産の「でわかおり」や「最上早生」を使い、山形のそば街道のおいしいお店に近づけるべく努力しています。小林研究室では、年末のそば打ち大会が恒例で、学生たちが打った極太そばも楽しみでした。

もう一つがスパイスカレーづくりです。スパイス調合の奥深さが魅力で、大学祭では研究室の学生が来店したカレー屋台に便乗してスペシャル・スパイスカレーを出食しました。特徴は香りづけのカルダモンとスターアニスです。たいへん好評をいただき、あっという間に完売しました。



# LABORATORY REPORT

研究室通信 Vol.47

ライフデザイン学部  
生活デザイン学科

おお ぬま まさ ひろ

大沼 正寛教授

*Onuma  
Masahiro*

## PROFILE

1997年3月に東北大学工学部建築学科を卒業後、那須建設株式会社に入社。1998年8月～翌年3月には、伊藤邦明都市建築研究所で勤務。1999年4月に東北大学大学院工学研究科に進学し、東北文化学園大学で教鞭を執りながら、2004年に博士(工学)の学位を取得。本学ライフデザイン学部安全安心生活デザイン学科(現生活デザイン学科)には2012年から准教授として就任。2016年に教授となり現在に至る。

## 担当科目

住まいの造形意匠、ランドスケープデザイン、建築デザインI・II ほか



## 【研究テーマ】

### 地域の暮らしや生業を見つめ 未来に継ぐべき住空間をデザイン

古民家の再生事業や住まいのリノベーション、ランドスケープデザインまで、さまざまなプロジェクトを通して美しい場所のデザインを手がけたいと考える大沼先生。そこにどんな歴史背景があり、どんな人たちが住み、どのような生業が続けられてきたのか、現地調査を元に思索をめぐらすことで、新たな空間の価値を創り出そうとしています。そして、その場所で培われた文化や伝統を後世に伝えていくための課題にも取り組んでいます。



研究室の様子(京都研修旅行 聴竹居にて)

### 伝統的町並みの調査研究で知った 地域の営みが描き出す美しい景色

—— 現在の研究へ向かうきっかけとは。

東北大学に在学中、のちに国の重要伝統的建造物群保存地区に選定される岩手県金ケ崎町城内諏訪小路に住み込みで調査を行ったことがきっかけです。そこで、現代の建築観とはまったく違った、時の積み重ねで味わいを深めた家屋を目にして感銘を受けました。住まいを丁寧に守り続けてきた地域の人々の営みに触れ、自分がこれまで建築雑誌などで目にしてきたものとは違う世界を知り、より深くその背景を知りたいと思いました。今でも新しい価値を生み出す建築の技術や先進的なデザインが好きなのは変わらないのですが、東北の風土や地域特有の課題、まちづくりの取り組みなどに興味の方向が向いています。

—— 建設会社に入社した理由とは。

建設会社に就職したのは、建築の現場をより近くで知りたかったからです。建材や職人の技術、創意工夫を一から学びたいと思いました。修行のような気持ちで現場を体験する中で、クライアントの要望通りに設計したりデザインの革新性を求めたりするよりも、地域の背景やそこに暮らす人の思いに視点を向けることこそが、自分が取り組みたい研究の方向性だと確信しました。

## 地方独自の建築文化や職人を訪ね かたちやしくみを探る調査研究

### —— 造家造景研究とは。

造家は建築の原語、造景とは、地域の自然環境と人々の営みによって生まれた風景を形成、育成することです。私がなぜ心惹かれるかという、その場所に工夫をし続けながら住み続けていくことで、長い年月をかけてより深みを増した風景が生まれるからなんです。こういうものは、早く安く価値を作りだそうとする現代のものづくりの考え方からは、決して生まれてこないものだと思います。

2019年に、本学内外の研究者メンバーで「生業景(なりわい)デザイン研究所」を発足しました。生業景とは、地域の資源や環境を活かして価値を生み出す地技(じわざ)を用いた生業がありなす地域固有の景観を意味する造語で、そう名付けました。陸前地方の天然石スレートをはじめ、丸森町のシルクや塩竈市の石材建築など、各地の取り組みに対してデザイン協力や実践的研究などに取り組んでいます。

### —— 天然スレート建築の研究とは。

東日本大震災が発生する以前から調査研究に取り組んでおり、スレート屋根の建築物が残る集落をいろいろと見て歩きました。その中で、石巻市雄勝町を訪ねた際、スレート屋根葺きの家屋が並ぶ風景に魅了されました。2000年頃、私の師匠である建築家の伊藤 邦明 氏が、雄勝硯伝統産業会館新館の設計を手がけ、これを手伝ったこともきっかけになりました。

2015年頃からは、ノーマルデザインアソシエイツ代表で本学の非常勤講師も務めている阿部 正さんと共同で、陸前地方の天然スレート建築に関する調査研究を本格化させました。阿部さんとは、石盤葺きの技術を後世に伝えるためのハンドブックの執筆なども手がけてきました。

雄勝硯生産販売協同組合と進めた「雄勝いしのわプロジェクト」(代表/菊地 良覚 特命教授)でもそうでしたが、貴重な技術を絶やさないために、投資や資金援助などの社会的な支えが必要だと重く感じています。そのためにも、天然スレート屋根の価値を広く知らしめていくことも、私の役割だと考えています。



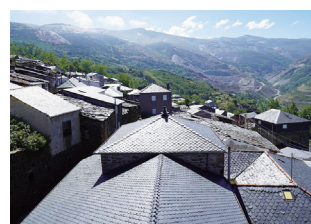
## 興味を持った物事に没頭しながら 耳目を広げて試行錯誤を

### —— 大沼先生にとっての「未来のエスキース」とは。

最近、環境問題やグローバルなビジネスを語る上で、「シンク・グローバリー、アクト・ローカリー(地球規模で考え、地域で行動する)」という標語をよく耳にしますが、私が提唱したいのはオープン・シンク・ローカリー。“開かれた没頭”でしょうか。これまでは、グローバルな視野をもってより多くを知り、誰よりも先んじる競争論理が尊ばれていましたが、最近の学生を見ると、等身大の自分らしさや周囲との共感を大事にしているように感じ、時代の進化を感じています。それは好ましく思えるのですが、その反面、SNSなどで発信して他人に承認されないと、自己を確認できない風潮になっているようにも思えます。学生たちには、そういう考えにとらわれず、何か好きなものを見つけて没頭することで、最後には他人から評価が得られる結果を生むかもしれないことを知ってほしい。特に私のような研究に取り組んでいると、多世代の人や地域の人に心を開き、いろいろ耳を傾けていくことで得られるものが多いと感じています。学生ゆえの自由な時間だからこそ、自分が没頭できるものを見つけ、心がおもむくままに練り重ねながら、他人の意見も受け入れていき、新たな価値に出会うチャンスを得てほしいと願っています。



石巻市での国登録文化財具申実測調査



スレート建築調査:スペイン・ガリシア州オウレンセ県カルバジェータ・デ・バルデオラス・カサイヨ村のカサイヨ教会

## COLUMN

おしえてください  
研究者の「こころの中」

### わたしと 挫折

挫折を経て得た  
人生の転機

令和8年は午年ですね。塞翁が馬という故事成語がありますが、何が運/不運かは分かりません。大学進学にさほど苦労しなかった少年は、封印していたエレキギターを解禁、バンド活動に勤しみます。男子校だったので今度はモテたいと、父の車を借りて遊ぶ日々。建築を志すも、入学後に学科を専攻する工学部で2年間は一般教養科目だけ。嫌いな科目を切り捨てていたら建築学科に落選、はじめての挫折です。

退学も考えましたが、休学はさんで金属材料系を一度卒業し、建築学科の3年次に学士編入しました。すると次々に人脈が展開。建築家の伊藤 邦明 先生に師事し、伊藤チームの岩手金ヶ崎の町並み調査に協力した本学の舛岡 和夫 先生(現名誉教授)に出会います。

その後紆余曲折を経て、いま私は旧舛岡研で仕事をして14年。感謝の日々です。いわば落馬から転じての人々や現場との出会いに支えられているのです。あでも落馬をお勧めはしませんよ。(笑)。



最前線の研究をレポート!

# LABORATORY REPORT

研究室通信 Vol.42

建築学部 建築学科

かぎ や こう じ Kagiya Koji  
鍵屋 浩司 教授

## PROFILE

1998年に早稲田大学で博士(工学)の学位を取得。1999年4月に建設省建築研究所第五研究部防煙研究室の研究員となり、2001年4月から国土交通省国土技術政策総合研究所都市研究部の研究員、主任研究官を歴任。2013年4月から独立行政法人建築研究所防火研究グループの主任研究員を務める。スウェーデン王国SPスウェーデン国立技術研究所客員研究員も経て、2017年7月に国立研究開発法人建築研究所防火研究グループ上席研究員となる。本学建築学部建築学科には2021年8月に教授として就任し、現在に至る。

## 担当科目

建築環境工学概論、都市環境、熱・空気環境、災害と建築



## 【研究テーマ】

### 地域課題に取り組みながら 最善の防災まちづくりを

国土交通省の研究所で、都市や建築の防火基準や都市計画手法に関する研究に携わってきた鍵屋先生。地方の過疎化といった社会の課題にも心を寄せながら当事者の声にも耳を傾け、伝統的な木造建築の街並みを守る防災計画に学生たちと取り組んでいます。また、身の回りのありふれた景色の中から、新たな研究の端緒となる興味の対象を見出し、自由な発想と技術的な可能性で裏付けて「かたち」にし、社会に向けて提案することを説いています。



研究室の様子

### 震災火災の被害を繰り返さぬよう 都市や建築の防災研究に注力

#### —— 研究所で防火対策に携わるきっかけとは。

学生の頃は、都市環境と建築に関わる分野で、ヒートアイランド現象や低炭素都市づくりといった環境対策をいかに都市計画に活かしていくかを研究していました。そして博士論文を取りまとめていた当時、阪神淡路大震災により広範囲で起きた火災の被害が強く印象に残っていたこともあり、防災的な観点でもいろいろ考察を深めたいと思ったのが、以後の方向性を決めるきっかけになりました。国土交通省の研究所でも都市火災に対応できる人材を求めていたこともあり、1999年から都市や建築の防火基準や都市計画手法に関する研究に携わり、その後木材利用促進や避難に関わる火災安全の基準づくりなどに取り組みました。

#### —— スウェーデンではどんなことを学びましたか。

スウェーデンをはじめとするヨーロッパ各国では、木造による中高層ビルの建設が盛んに行われていました。日本では火災による被害が多かったので、どうしてヨーロッパでは高層で木造のビルが建てられるのか不思議に思い、その実態や技術的な根拠を調べたいと思いました。そんな時、スウェーデン国立技術研究所客員研究員に招かれ、渡欧する機会が得られました。

## 現状の課題に綿密な考察を重ね 多くの気づきから最良の結論を導くために

### —— 鍵屋ゼミでの研究手法とは。

建築やまちづくりで日常の生活を安心して豊かにすることをテーマに、例えば超高齢社会の防火対策や避難安全性と両立させる防災計画・維持管理方法を扱っています。昨年夏は、宮城県栗原市花山地区を訪ねました。この地区は過疎化などにより空き家の数が目立っており、管理不全による火災発生が危ぶまれています。これは都市部でも近年、深刻な問題になっています。学生たちと大学のバスで現地に向い、実際に歩いて視察を行いました。さらにそこで、市の都市計画課の担当者や空き家問題に取り組んでいる団体スタッフなどにも聞き取りを行い、この地域が抱える課題や実情を知りました。地方の人口減に関する問題に、災害の危険がはらんでいる事実への気づきが得られ、当事者から生の声を聞くことの大切さを学んでもらえたと思っています。



### —— 研究テーマの見つけ方とは。

ゼミでは学生たちによく、自分たちの身近なことで少しでも関心をもてるものがあれば、それを大事にして研究テーマにしてみなさいと指導しています。日常の中で見過ごしがちな事象の中に、違和感や不便さを感じるならば、それを追求するべきです。つまらない、恥ずかしいと思うことはありません。そのような身近な違和感こそが、何か重要な問題につながるかもしれません。ゼミでは、盛んなディスカッションを行い、研究テーマの検討を行っています。例えば、大学のある八木山に電柱やマンホールがいくつあるのか調査に取り組んだことがあります。これは、大震災などで身近な避難場所を知るための手掛かりになります。また、

災害時を想定して自動運転車いすで建物内を避難する模擬実験も行い、介護ロボットに乗車していると通過しづらいドアや対向者とすれ違うのに困難な幅の通路があることを示すことができました。

## 得難い本質にたどり着くために 考え得るあらゆるアプローチを

### —— 学生たちに求める姿勢とは。

物事の本質を見極めることは、決して容易いことではありません。社会人になれば、答えのない問題を解くような経験を何度も味わうでしょう。そんな時、自分に与えられた状況や条件を見つめ直し、どのような答えを導き出せばいいのか、しっかりと見定めることが必要になります。そのためにも、常に周りをしっかり見て考え、好奇心を絶やさないことが肝心です。机にしがみついで勉強しろとは言いません。私もどちらかと言えば真面目な方ではなかったので、学生だからこそ遊びやアルバイトなどいろいろな経験をしてほしいと思っています。外部からの情報や刺激が多いほど、気づきを得られるチャンスに恵まれるでしょう。

### —— 鍵屋先生にとっての「未来のエスキース」とは。

私にとって未来のエスキースとは「日常」です。ただ意識せずにご過ごだけでは、何も気づくことはできないので、身近な物事もちょっと視点を変えて考えてみましょう。そうすれば、いつもと違った景色を目にすることができるはず。スマホでネット検索したり誰かに聞いたりすれば、何らかの答えが得られるかもしれません。そうして得た知識を紡いでいき、違った糸口を発見することができれば、問題の本質にたどりつくことができるかもしれない。そんなプロセスこそ大切にしたいと考えています。



自動運転車いすの建物内の移動方法の模擬実験



過疎地の空き家の防災に関する現地調査



幼児やペットの熱中症予防センサの開発

小型犬を飼い始めて6年が経ちました。お迎えした時は手のひらに乗る大きさでしたが、今では6キロ弱に成長しました。イヌはヒトの言葉、例えば、「まで」「おすわり」「さんぽ」を理解しますが、声の羅列である言葉をどのように概念理解しているのか観察しています。認知科学の演習のようですが、乳児が言語能力を獲得する過程にも通じるところがありそうです。人は名前という単語で自分を認識したり他者を識別しますが、犬は自分の名前を呼ばれると、どうやら自分のことではなく、その単語に反応した時に、飼い主が褒める時に出す周波数の高い声（いわゆる猫なで声）のように「心地よいもの」、「褒美に貰えるおやつのような美味いもの」と認識しているようです。犬が散歩中においを嗅ぎまわったり、マーキングしたりするのは人間のSNSと同じ情報収集・情報発信だと聞いたことがあり、興味が尽きません。ちなみに愛犬の名前は哲学者デカルトにちなんでルネです。



## わたしと愛犬

イヌは果たして「我思う」のか？



## COLUMN

おしえてください  
研究者の「こころの中」



ホンネで

教員×学生

# Lab Talk!

研究室対談

## ライフデザイン学部 生活デザイン学科 造家造景研究室

**大沼先生** 大内さんは成績優秀な上、陸上競技部のやり投げ選手として活躍しているので、あまり心配することはないですね。

**大内さん** ありがとうございます。大沼先生は、本当にご自身の研究に情熱を注いでいる方だという印象です。こちらが1つ質問すると100倍くらいの回答で戻ってくるので、いつも圧倒されています…。

**大沼先生** そうなのかな？ 確かに、建築図面みたいな

**大内さん** 地元にはよく見慣れていた建物だったので、そんな歴史のある貴重な建築物だと知り、大変驚きました。

**大沼先生** 調査が進んでいるようですので、資料を読み込んでおいてください。現地で保存に関わっている人たちに取材するのもいいですね。

**大内さん** 関係者への聞き取りや現地調査など、初めての挑戦もたくさんありそうなので、自分なりに頑張りたいと思います。

子どもの頃から見慣れた街並みの景観の中に古き良き時代の建築美や価値を秘めたレトロ庁舎の再活用を。



おおうち りん  
**大内 凜さん**

おおぬま まさひろ  
**大沼 正寛教授**

のを見ると、妄想が広がってワクワクしますけどね。

**大内さん** 1年生の時に受講した「住まいの造形意匠」の内容がとても興味深く、将来、地域のまちづくりに関わる仕事に就きたいと思っていたので、大沼先生の研究室で学びたいと、その時心に決めました。

**大沼先生** それは光栄です。大内さんは、福島県郡山市出身なんですよ。

**大内さん** はい、卒業設計は、1930年に建設され、老朽化のために内部部署の移転が進んでいる旧郡山合同庁舎の再活用をテーマに取り組みうと考えています。

**大沼先生** 本件はいま、日本建築学会東北支部でも話題になっており、大内さんに紹介できてうれしいです。同時期のものとしては、石巻市指定文化財「旧観慶丸商店」があり、これは私も保存整備の検討に加わりましたが、近代建築は和と洋が融合して面白いですよ。

たいと思います。

**大沼先生** 最初の現地見学は、一緒に行きましょう。私としては、研究活動は学生が自主的に取り組んで欲しいので、大内さんにもオリジナリティーを大切にして発想を膨らませてほしいと思っています。

**大内さん** どんな調査研究になっていくのか、今から楽しみです。

**大沼先生** そういえば、大内さんは部活動で講義やゼミを休むような印象が無いですよ。

**大内さん** 学業第一ですから。部活動は無理せず、楽しめる範囲で続けています。

**大沼先生** 素晴らしい！

**大内さん** 部活動の時間は本当に楽しいですが、空間デザインや地域づくりなどより広い視点で学べている現在の環境に、とても充実感を感じています！

研究活動を通して、日々繰り返されている先生と4年生の対話。  
そんなお互いのリスペクトに満ちたトークに耳を傾けてみませんか。

過去の対談は  
こちらから!



## 建築学部 建築学科 環境・防災システム研究室

**佐藤さん** 鍵屋先生は、建築学科の先生の中で一番学生思いだと思っています。

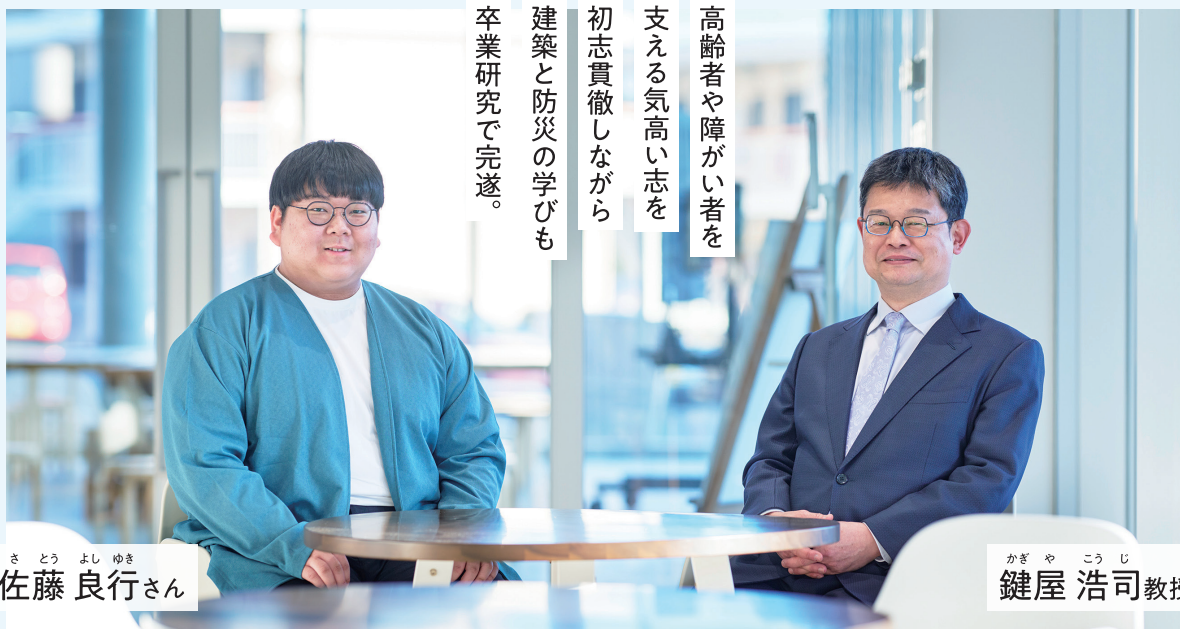
**鍵屋先生** え、本当に!? それは、どんなところが?

**佐藤さん** 研究室の学生みんなの卒業論文の進み具合をいつも気にかけていましたし、研究テーマの選定も学生の考えを尊重してくれました。学生と一緒に悩み資料探しをサポートしていただくなど、親身に寄り沿ってくれたことが何よりもうれしかったです。

プラスしていることが素晴らしいですね。佐藤さんには、ぜひ大学院の進学を考えてほしかったんだけどな…。

**佐藤さん** 進学も考えたんですが、少しでも早く要介護者を支える仕事がしたいと思って、建設会社への就職を決めました。

**鍵屋先生** その志も、本当に立派だと思います。そういえば佐藤さんとは、一緒に花山地区の現地調査へ行きましたね。道の駅に立ち寄った時、産直品の売り場で



卒業研究で完遂。

建築と防災の学びも

初志貫徹しながら

支える気高い志を

高齢者や障がい者を

さとう よし ゆき  
佐藤 良行さん

かぎや こうじ  
鍵屋 浩司教授

**鍵屋先生** 佐藤さんの卒業論文のテーマは、私が取り組んでいる研究にも通じるものがあったので、どんどんやってみたら応援することができました。

**佐藤さん** 私は「高齢者施設の避難経路と介護ロボットの役割」という研究テーマに取り組み、災害時に避難する上で介護をサポートするロボットがどのように役立つかを調べました。

**鍵屋先生** 自ら質問事項をまとめて市内の特別養護老人ホームに調査へ行くなどとても積極的でしたね。このテーマを選んだ理由は何か?

**佐藤さん** この大学の志望理由が、将来、高齢者や障がいを持つ人にとって住みやすいまちづくりに関わる研究や仕事に就きたかったからなので、卒業論文で書きたいテーマは自ずから決まっていました。

**鍵屋先生** そこへさらに、災害時の避難経路の要素を

蕎麦粉を見つけて、自分は蕎麦打ちができるかと教えてくれたことに驚きました。

**佐藤さん** 母親も蕎麦打ちが得意なんです。だから、我が家では年越し蕎麦は自前で作るのが恒例になっているんですよ。

**鍵屋先生** 渋い趣味だな~! 蕎麦打ちって、結構難しいですよね?

**佐藤さん** つなぎを使わない十割蕎麦を打つんですが、均等に細く切るのが一番難しく、おいしさに関わる工程なんですよね。

**鍵屋先生** 熟練の技術が必要なんですね。佐藤さんが打った蕎麦、食べたかったな~!

**佐藤さん** 仕事が落ちついたら、お蕎麦を届けに研究室へおうかがいしますね。

**鍵屋先生** その日を楽しみに待っています。

## 地域連携センター【CRC: Center for Regional Collaboration】

### ◆第2回「まちなか文学館講座」を開催

2025年11月29日(土)、東北工業大学地域連携センター「テクロビ(TECH-LOBBY)」エスキースルームにて「まちなか文学館講座」を開催しました。本講座では、樋口一葉の草稿・日記・雑記などの自筆資料や、文机・着物など愛用の品を紹介しつつ、24年間の一葉の生涯と作品について解説いただきました。



会場の様子



(第2回)11月29日(土)  
「樋口一葉・その文学と生涯―貧しく、切なく、いじらしく―」  
講師:赤間 亜生氏(仙台文学館 副館長)

### ◆工学部主催「工学連携フォーラム ～高校生の「？」が「！」に変わる!イノベーションの最前線～」を開催



研究の成果をパネルなどで紹介

2025年12月20日(土)、アーバンネット仙台中央ビル1階イノベーションスペースで、工学部主催「工学連携フォーラム～高校生の「？」が「！」に変わる!イノベーションの最前線～」が開催されました。東北工業大学 工学部では、電気電子工学課程、情報通信工学課程、都市工学課程、環境応用化学課程がそれぞれ最先端の研究を進めています。本フォーラムでは、未来の工学を担う高校生や仙台市民にこれら多様な研究を紹介しました。さらに、工学部の学生で構成する「IEEE Student Branch of TOHTECH」による講演会や教員による分野横断プログラムに関する講演も開催しました。

### ◆富沢児童館との地域連携事業 「遊ぶ楽しさ教え隊～コキアでほうきをつくろう～」を開催

2025年12月20日(土)、富沢児童館で地域連携事業「遊ぶ楽しさ教え隊～コキアでほうきをつくろう～」(指導:ライフデザイン学部産業デザイン学科 籾下 聡希 准教授)を開催しました。参加した児童らは、枝から種や葉を丁寧に取り除き、束ねた枝を麻紐で

固定して穂先を整える作業を一つずつ丁寧に取り組みました。完成したほうきを使い、児童らが自主的に会場を掃除する場面もあり、楽しみながら実用性を感じる姿が印象的でした。





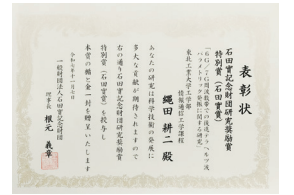
## 研究支援センター【RSC: Research Support Center】

企業及び各種団体との共同研究や受託研究を推進し、科研費等の外部資金研究開発推進等を行っています。

### ◆情報通信工学課程 縄田 耕二 准教授が 石田實記念財団2025年度研究奨励賞特別賞(石田賞)を受賞

2025年11月7日(金)、財団法人石田實記念財団奨励賞贈呈式・研究発表会が行われ、情報通信工学課程 縄田 耕二 准教授が研究テーマ「6G/7G周波数帯での後進テラヘルツ波パラメトリック発振に関する研究」で、研究奨励賞特別賞(石田賞)を受賞しました。

この賞は、環境、システム及び工学一般分野において、情報通信に関連する研究及び開発を行う、学術研究機関の研究者及び教育者の研究成果(現在、研究中のテーマ含む)に対する業績をたたえ、また今後の情報通信産業の進歩発展への貢献に期待し、贈呈されるものです。



### ◆東北医科薬科大学×東北工業大学 医薬工研究連携キックオフセミナーを開催



2025年11月22日(土)、ホテルJALシティ仙台を会場に東北医科薬科大学×東北工業大学 医薬工研究連携キックオフセミナーを開催し、両大学の教職員44名が参加しました。

第一部講演会では、学長挨拶として、東北医科薬科大学 大野 勲 学長と渡邊 浩文学長が登壇し、医薬工研究連携の意義と期待が述べられました。

続いて、東北医科薬科大学 研究推進委員会委員長の高橋 伸一郎 教授より本連携の趣旨説明がありました。研究発表では各研究分野の成果と今後の共同研究の可能性が示され、活発な質疑応答が行われました。

第二部交流会では、小林 正樹 副学長からの挨拶のあと、参加した先生一人ひとりから研究内容が紹介されました。セッションを通じて、参加者同士交流が深まり、今後の連携に向けたネットワーク形成が進みました。

本学では、「東北SDGs研究実践拠点」を軸に、今後も継続的に医薬工研究連携に取り組んでいきます。

①渡邊 浩文学長 ②丸尾 容子 教授 ③辛島 彰洋 教授 ④佐藤 篤 教授 ⑤鈴木 郁郎 教授



### ◆「東北工業大学SDGs研究実践拠点 福島県円卓会議」を開催

2025年12月13日(土)、郡山ビューホテル(福島県郡山市)で「東北工業大学SDGs研究実践拠点 福島県円卓会議」を東北工業大学・東北工業大学同窓会の共催、後援会後援のもと開催し、関係者54名が参加しました。

本学渡邊 浩文学長の挨拶に続き、研究活動事例として、建築学部 建築学科 菊田 貴恒 教授が「環境配慮型セメント系材料に関する研究について」、ライフデザイン学部 生活デザイン学科 伊藤 美由紀 准教授が「共に創る福祉のまちと拠点のかたち」のテーマで発表しました。

円卓会議の話題提供として石井 敏 副学長より「大学の近況及び東北SDGs研究実践拠点について」の講演が行われました。続いて、東北工業大学卒業生および後援会より4名が登壇し「福島県から工大に期待したいこと-持続可能な東北をめざして-」と

いうテーマで講演した後、参加者や教員との間で活発な意見交換が行われ、充実した会議となりました。



①開会挨拶 渡邊 浩文学長 ②モデレータ 石井 敏 副学長・建築学部長  
③菊田 貴恒 教授 ④伊藤 美由紀 准教授 ⑤青木 弘氏 ⑥市川 良一氏  
⑦高橋 章氏 ⑧嶺岸 由紀彦氏

## キャンパス通信

### ◆東北工業大学課外活動優秀者表彰式(令和8年2月6日)

2月6日(金)、八木山キャンパスにおいて「令和7年 東北工業大学 課外活動優秀者表彰式」を開催しました。

本表彰式は、課外活動連合委員会加盟団体に所属し、優れた成績や活動実績を修めた学生および団体の功績を称えるものです。当日は学生・教職員が見守る中、渡邊 浩文学長および丹野 喜昭 後援会長より、個人の部21名、団体の部1団体に表彰状と副賞が授与されました。

続いて、受賞者に向けて祝辞が述べられ、これまでの努力と成果が讃えられるとともに、今後のさらなる活躍への期待が寄せられました。

本表彰式は、受賞者の栄誉を称える場であると同時に、出席した学生にとっても課外活動の意義を改めて実感し、次年度への意欲を高める機会となりました。

#### 【個人の部(課外連団体所属)】

課程・学科／専攻	学年	氏名	大会名または活動内容	成績など	所属等
情報通信工学科	2	佐野 博翔	第43回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会	全東北代表	準硬式野球部
情報通信工学課程	1	鈴木 亜夢呂	第62回仙台市民総合体育大会 ライフル射撃競技 AP60MW	第1位	射撃部
建築学科	3	中川 萌依	第78回東北学生陸上競技対校選手権大会	女子10000mW 第1位	陸上競技部
			第53回東北学生陸上競技個人選手権大会 女子10000mW	女子10000mW 第2位	
			第54回東北学生陸上競技個人選手権大会 女子10000mW	女子10000mW 第2位	
	3	坂井 冬弥	第66回東北バレーボール大学男女リーグ戦	優秀選手賞	男子バレーボール部
	1	植野 広大	令和7年度東北地区大学準硬式野球連盟 春季リーグ戦 1部リーグ	新人賞	準硬式野球部
生活デザイン学科	4	鈴木 龍太郎	第4回全日本大学準硬式野球東西対抗日本一決定戦甲子園大会	東日本代表	準硬式野球部
	3	菅井 惇平	令和7年度 仙台六大学野球 春季リーグ戦	ベストナイン(外野手)	硬式野球部
	3	佐藤 丈広	令和7年度 仙台六大学野球 秋季リーグ戦	ベストナイン(遊撃手)	硬式野球部
経営デザイン学科	4	今野 遥斗	令和7年度東北地区大学準硬式野球連盟 春季リーグ戦 1部リーグ	ベストナイン(外野手)	準硬式野球部
デザイン工学専攻	1	佐田 絢球	第59回和道流空手道連盟北海道大会 組手団体戦	一般男子の部 優勝(2連覇)	空手道部

#### 【個人の部(課程・学科・センター推薦)】

課程・学科／専攻	学年	氏名	大会名または活動内容	成績など
情報通信工学課程	1	紀伊 広夢	キャンパスベンチャーグランプリ東北 起業学生ラボ	奨励賞
環境応用化学科	4	小山 陽平	第17回廃棄物資源循環学会東北支部&第13回日本水環境学会東北支部合同研究発表会	奨励賞
	4	齋藤 吏胡	第17回廃棄物資源循環学会東北支部&第13回日本水環境学会東北支部合同研究発表会	奨励賞
環境応用化学専攻	(修士) 2	高橋 颯真	公益社団法人 腐食防食学会主催「第72回材料と環境討論会」 題目:「アノード電着を用いた PEM 水電解用マンガン酸化物陽極触媒の創製」	若手講演奨励賞
建築学科	4	赤坂 彪真	第29回JIA東北建築学生賞	優秀賞
			2025年度日本建築学会設計競技 「『解築学』を可視化する—解体と循環の時代を切り拓け」	支部入選
			第17回ハーフェレ学生デザインコンペティション	一次審査通過
	4	菅井 笙	第22回 主張する「みせ」学生デザインコンペ	奨励賞
			景観開花2025「CONVERSION Doboku -時間, 空間, 転換.-」	佳作
	4	佐々木 優真	第22回 主張する「みせ」学生デザインコンペ	奨励賞
			景観開花2025「CONVERSION Doboku -時間, 空間, 転換.-」	佳作
4	庄子 諒	第29回JIA東北建築学生賞	優秀賞	
		2025年度日本建築学会設計競技 「『解築学』を可視化する—解体と循環の時代を切り拓け」	支部入選	

建築学専攻	(修士) 2	高橋 杜真	2025年度日本建築学会設計競技 「『解築学』を可視化する-解体と循環の時代を切り拓け」	支部入選
			景観開花2025「CONVERSION Doboku-時間,空間,転換。-」	佳作
	(修士) 2	加茂 賢登	2025年度日本建築学会設計競技 「『解築学』を可視化する-解体と循環の時代を切り拓け」	支部入選
			景観開花2025「CONVERSION Doboku-時間,空間,転換。-」	佳作
	(博士) 1	三品 亮祐	キャンパスベンチャーグランプリ東北 起業学生ラボ	最優秀賞
			輝け!日本の大学生 起業学生ラボ	2次予選通過
産業デザイン学科	3	深瀬 水月	第22回デザイングランプリTOHOKU 学生の部	奨励賞 東北地区印刷協議会会長賞
経営デザイン学科	3	畠山 世那	キャンパスベンチャーグランプリ東北 起業学生ラボ	奨励賞

[団体の部]

団体名	大会名または活動内容	成績など
男子バレーボール部	第65回東北バレーボール大学男女リーグ戦	2部南リーグ 準優勝
	第65回東北バレーボール大学男女リーグ戦	2部南リーグ 優勝

## ◆サイバーボランティア活動において宮城県警察から感謝状が贈呈

2月19日(木)、宮城県警察本部でサイバー防犯ボランティア活動に貢献した本学学生と本学に宮城県警察から感謝状が贈呈されました。

昨年6月に通信工学専攻および情報通信工学課程(学科)の学生13名が宮城県警察より大学生サイバーボランティアを委嘱され、児童被害防止のためSNSの悪質な書き込みや特殊詐欺に関連する書き込みの通報活動を行いました。

その取り組みに対し、「宮城県警察サイバー防犯ボランティア感謝状贈呈式」が行われ、宮城県警察本部サイバーセキュリティ統括官より、特に貢献の大きかった学生9名と大学宛に感謝状が贈呈されました。

なお、本活動は、2014年から始まり、今年で12年目となります。



感謝状贈呈式

## ◆都市工学課程 小野 桂介 講師が トーキン財団奨励賞を受賞

3月4日(水)、仙台国際ホテルで公益財団法人トーキン科学技術振興財団※第36回(令和7年度)トーキン科学技術賞の贈賞式が行われ、工学部 都市工学課程 小野 桂介 講師が奨励賞を授与されました。

※株式会社トーキン発祥の地である宮城県内の研究者に報いるため、工学分野の研究への助成、研究成果への奨励を目的に、平成2年に設立されたものです。



第36回トーキン科学技術賞 贈賞式

## ◆女子学生特設サイト「Pi・n・t!」に 「Pi・n・t! Magazine vol.1」を公開

女子学生特設サイト「Pi・n・t!」に、本学的女子学生の情報をお伝えるために発行している情報誌「Pi・n・t! Magazine vol.1」を公開しました。

Pi・n・t! Magazine vol.1



## ◆起業学生ラボ所属の学生がキャンパスベンチャーグランプリ(CVG)東北大会で最優秀賞・奨励賞を受賞

2月5日(木)、ホテルメトロポリタン仙台でキャンパスベンチャーグランプリ(CVG)東北大会表彰式が開催され、起業学生ラボ所属の建築学研究科 建築学専攻 博士後期課程(博士)1年 三品 亮祐さんが最優秀賞、工学部 情報通信工学課程 1年 紀伊 広夢さんが奨励賞を受賞しました。

キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)は、1999年に大阪で始まったベンチャー・スタートアップ系のコンテストであり、国内外でも最も歴史ある表彰事業の一つです。キャンパスベンチャーグランプリへの出場をきっかけに起業し、活躍している先輩も多く、“学生起業家の登竜門”として広く知られています。(キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)Webサイトより)



**最優秀賞**  
『建築用パースAIサービス「Archiviz(アーキビズ)」』  
建築学研究科 建築学専攻  
博士後期課程(博士)1年  
三品 亮祐さん



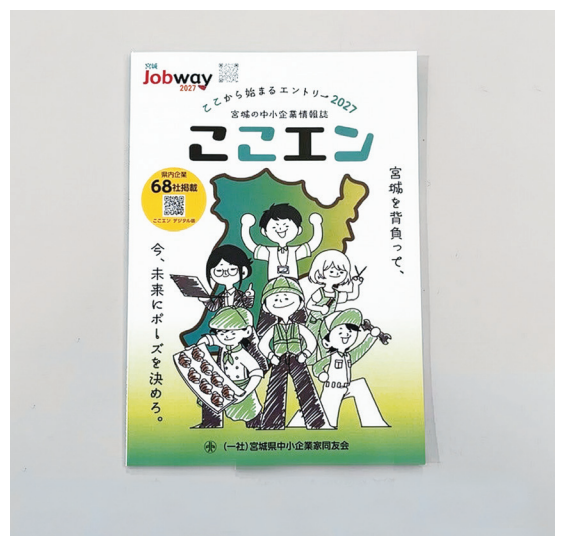
**奨励賞**  
『SNS炎上対策ウォール(SNMS)』  
工学部 情報通信工学課程  
1年 紀伊 広夢さん(写真右)  
ライフデザイン学部 経営デザイン学科  
3年 畠山 世那さん  
建築学部 建築学科  
1年 糸川 佳良さん



## ◆産業デザイン学科 2年 伊藤 鈴夏さんが宮城の中小企業情報誌「ここエン」表紙デザインコンペで最優秀賞を受賞

2月9日(月)、ホテル白萩で行われた一般社団法人宮城県中小企業家同友会の関係者会議にて、ライフデザイン学部 産業デザイン学科 2年 伊藤 鈴夏さんが、企業情報誌「ここエン」表紙デザインコンペの最優秀賞受賞者として表彰されました。

最優秀賞を受賞した伊藤さんの作品は、宮城の中小企業情報誌「ここエン」2027年卒業生向けの号の表紙デザインに採用され、宮城県中小企業家同友会のポスターやデジタル広告、SNSバナーなどでも使用が予定されています。



伊藤さんのイラストが掲載された表紙

## ◆2025年度(令和7年度)卒業研修発表・展示会レポート

### 工学部 電気電子工学科

【日時】2月24日(火)

【会場】八木山キャンパスtohtech FORUM, 912～914・937教室

午前中に78件のポスター発表、午後9件の口頭発表を実施。学生同士や学生と教員との間で活発な議論がなされ、大変盛況となりました。なお、この卒業研修発表会では、全教員と3・4年生の投票により優秀賞を選出し、学科学位授与式で課程長より表彰されました。



### 工学部 情報通信工学科

【日時】2月25日(水)

【会場】八木山キャンパスtohtech FORUM

情報通信工学科では、ポスター形式の発表会を行いました。本年度は98件の発表を3部形式で行いました。一部の2・3年生の参加者も見られ、活発な議論が交わされました。発表後、学生による優秀発表賞の投票が行われ、学科学位授与式で表彰されました。



### 工学部 都市マネジメント学科

【日時】2月9日(月)・10日(火)

【会場】八木山キャンパスtohtech FORUM, 913教室

卒業研修論文発表会が開催され、計61件(75名)の発表が行われました。今年度は新たにポスター発表を導入し、発表者はオーラルまたはポスターを選択しました。1年間の成果を自信をもって発表する姿が見られました。ベストプレゼンテーション賞は学科学位授与式にて表彰されました。

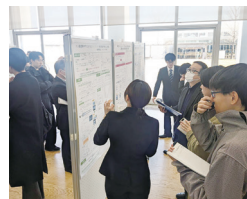


### 工学部 環境応用化学科

【日時】2月10日(火)

【会場】八木山キャンパスtohtech FORUM

環境応用化学科3期生の研修成果をポスター形式で発表しました。午前と午後の部に分かれ、環境や化学に関する全39件の研修成果の発表を行いました。学部3年生も参加し、活発な議論を行いました。



### 建築学部 建築学科

【日時】2月27日(金)～3月4日(水)

【会場】せんだいメディアテーク5階ギャラリー(学外展示会)

今年度は卒業設計38点、修士設計7点のほか、各教員・研究室の活動紹介パネルや修士研究・卒業研究の成果パネルを展示しました。2月27日(金)には外部審査員5名を招いた公開審査会を開催し、学内選考を経た卒業設計・修士設計の発表が行われ、各賞が決定しました。



### ライフデザイン学部 産業デザイン学科

【日時】2月13日(金)～2月18日(水)

【会場】せんだいメディアテーク6階ギャラリー(学外展示会)

産業デザイン学科の幅広いデザイン分野を網羅するさまざまな卒業制作を展示し、5日間の開催で1,480名の来場者に恵まれました。2月14日(土)には卒業に合わせたOBOGの集いを開催し、卒業を見ていただきながらの意見交換と懇親会を行いました。



### ライフデザイン学部 生活デザイン学科

【日時】2月27日(金)～3月4日(水)

【会場】せんだいメディアテーク5階ギャラリー(学外展示会)

卒業制作展を開催し、多くの地域の関係者に学生の成果を報告することができました。また、学生の家族や卒業生が来場し、熱心に模型やパネルを眺めていました。

今年は来場者による投票を行うことで展示会場がさらに活気づいたようでした。



### ライフデザイン学部 経営デザイン学科

【日時】1月27日(火)

【会場】長町キャンパス R129教室

11研究室から代表学生11名が登壇し、卒業論文・卒業制作に取り組んだ研究成果をスライド資料に取りまとめて発表しました。発表後には、教員および学生から多角的な視点でのコメントや評価が行われ、活発な意見交換がなされた有意義な卒業研修発表会となりました。



## ◆令和7年度学位授与式(令和8年3月19日)

令和7年度学位授与式が、3月19日(木)に執り行われました。渡邊 浩文 学長より式辞の後、学部生代表の渡邊 大桜さん(工学部 都市マネジメント学科)、修士生代表の太田 有希乃さん(工学研究科

環境応用化学専攻)が答辞を述べました。卒業生、修士生の皆さんの今後のご活躍を心よりお祈りいたします。

令和7年度学位授与者  
学部合計 / 770名

#### ●工学部

学科	人数
電気電子工学科	128名
情報通信工学科	116名
都市マネジメント学科	75名
環境応用化学科	42名
合計	361名

#### ●建築学部

学科	人数
建築学科	151名

#### ●ライフデザイン学部

学科	人数
産業デザイン学科	90名
生活デザイン学科	86名
経営デザイン学科	82名
合計	258名

大学院計 / 38名

#### ●工学研究科

##### 博士前期課程(修士)

専攻	人数
電子工学専攻	3名
通信工学専攻	6名
土木工学専攻	8名
環境応用化学専攻	6名
合計	23名

#### ●建築学研究科

##### 博士前期課程(修士)

専攻	人数
建築学専攻	15名

東北一部へ、挑み続ける

男子  
バレー  
ボール部

部長  
あきもと らい き  
秋元 来喜さん  
建築学部  
建築学科3年



クラブ・  
サークル  
紹介



男子バレーボール部は、東北学生バレーボール部リーグ昇格を目標に、計画的かつ継続的な活動を行っています。基礎技術の向上を重視しながら、試合を想定した実践的な練習にも力を入れ、競技力の向上に努めています。

練習では、学年の垣根を越えた連携を大切にし、部員一人ひとりが役割と責任を自覚した行動を心がけています。また、競技面のみならず、礼儀や協調性、主体性といった社会性の育成にも重点を

置き、学生としての成長を図っています。

さらに、部活動を通して培われる忍耐力や継続力は、学業や将来の進路においても重要な力になると考えています。加えて、部員同士が互いに切磋琢磨しながら高め合う環境づくりを大切にし、安定したチーム力の構築を目指しています。

チーム一丸となって目標に向き合い、粘り強く挑戦を続ける姿勢を大切にしながら、今後もさらなる高みを目指して活動していきます。

数字で見る工大 一級建築士試験の合格者(2025年度)編



今年度の一級建築士試験合格者が2025年12月24日に発表されました。合格率が11.4%と厳しい中で、東北工業大学の建築学科の卒業生は18名(昨年度は13名)が合格!

合格者数順位は、東北地方では日本大学(郡山市の日大工学部のほか、理工学部などすべての学部・学科を含む)、東北大学について第3位という結果でした。

公式Instagram  
更新中!



フォロー  
お願いします!

@tohtech\_official

表紙の声

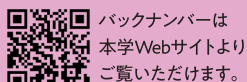


ライフデザイン学部 生活デザイン学科4年  
大内 凜さん

陸上競技部に所属してやり投の選手として活躍しながら、成績優秀者賞の受賞経験もある、まさに文武両道の大内さん。将来、地域の活性化を支える仕事に就くことを目指しており、卒業研修も地元郡山のレトロな建物について取り組む予定です。

工大広報 No.321 2026年4月1日発行(年4回発行)

発行:東北工業大学  
〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35番1号  
TEL:022-305-3144(入試広報課)



バックナンバーは  
本学Webサイトより  
ご覧いただけます。

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/kodaikoho/>



公式X  
@tohoku\_koudai



公式Instagram  
@tohtech\_official



東北工業大学 ブランドスローガン

未来の  
エスキースを  
描く。

このブランドスローガンは、本学の建学の精神に基づく基本理念を端的に表現するとともに、本学が歩むべき未来への強い意思を表すものとして2022年に制定しました。

本誌「LABORATORY REPORT」では、本学教員それぞれが描く「未来のエスキース」についても語ってもらい、その信念や展望に迫ります。



東北工業大学ブランドサイト  
<https://www.tohtech.ac.jp/brand/>